

Sasuke Furuta
Nobunaga Oda
Hideyoshi Hashiba
Mitsuhide Akechi
Osen

1487

HYOUGE MONO ENCL 2003
MORNING KC

MORNING
KC
1487



へうげもの
Hyouge Mono

1

山田芳裕
YOSHIIRO YAMADA

山田芳裕
YOSHIIRO YAMADA

講談社

へうげもの

TEA FOR UNIVERSE, TEA FOR LIFE.

**Hyouge
Mono**
YOSHIIRO YAMADA

1



KODANSHA



9784063724875



1929979005146

雑誌 42665-87

ISBN4-06-372487-5

C9979 ¥514E (0)

モーニングKC 講談社

定価：本体514円(税別)

It was the Sengoku-era, when the warlords usurped each other.
There was a man whose soul was overtaken by the ways of tea and material greed,
as he worked his way up toward greater power and status.
His name was Sasuke Furuta, a subordinate warrior of Nobunaga Oda.
With his world broadened by Nobunaga the Genius, and his spiritual insight
learned from Senno Soueki the Master of Tea, Sasuke drove road to Hyouge Mono.
To live or not to live. For the power or the art. That is the question!!

群雄割拠、下剋上の戦国時代。

立身出世を目標しながら、

茶の湯と戦役に情を奪われた男がいた。

織田信長の家臣・古田左介。

天才・信長から壮大な世界性を。

茶聖・千利休(利休)から深遠な精神性を学び、

『へうげもの』への道をひた走る。

生か死か。武か藝術か、それが問題だ!!



Sasuke Furuta
Nobunaga Oda



Hideyoshi Hashiba



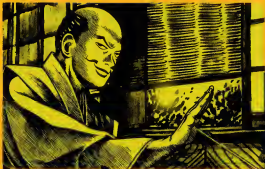
Mitsuhide Akechi



Osen



Sasuke Furuta
Nobunaga Oda
Hideyoshi Hashiba
Mitsuhide Akechi
Osen



へうげモノ

TEA FOR UNIVERSE, TEA FOR LIFE.

**Hyouge
Mono**
YOSHIHIRO YAMADA

91分



KODANSHA

TEA FOR UNIVERSE, TEA FOR LIFE.

HYOUGE MONO 1

第一巻 君は“物”のために死ねるか?!

第二巻 黒く塗れ!!

第三巻 碗 LOVE

第四巻 茶室のファンタジー

第五巻 天界への階段

第六巻 強き二人の茶事

第七巻 京のナイト・フイヤー

第八巻 カイン・オ・オ・オ・オ・オ

第九巻 天下よりの使者

山田芳裕
YOSHIHIRO YAMADA

講談社

Sasuke Furuta
Nobunaga Oda
Hideyoshi Hashiba
Mitsuhide Akechi
Osen

へうげモノ

TEA FOR UNIVERSE, TEA FOR LIFE.

KODANSHA

Hyouge Mono



1 山田芳裕
YOSHIHIRO YAMADA

It was the Sengoku-era, when the warlords usurped each other.

There was a man whose soul was overtaken by the ways of tea and material greed, as he worked his way up toward greater power and status.

His name was Sasuke Furuta, a subordinate warrior of Nobunaga Oda.

With his world broadened by Nobunaga the Genius, and his spiritual insight learned from Senno Soueki the Master of Tea, Sasuke drove road to Hyouge Mono. To live or not to live. For the power or the art. That is the question!!

Sasuke Furuta
Nobunaga Oda
Hideyoshi Hashiba
Mitsuhide Akechi
Osen



TEA FOR UNIVERSE, TEA FOR LIFE.

KODANSHA

Hyouge Mono

It was the Sengoku-era, when the warlords
There was a man whose soul was overtaken
as he worked his way up toward greater power.
His name was Sasuke Furuta, a subordinate.
With his world broadened by Nobunaga the
learned from Senno Soueki the Master of Tea.
To live or not to live. For the power or the





へげもの

山田芳裕

第一席
君は

“物”のために
死ねるか!?



戦国の乱世に
武人として
生まれた以上……

やはり
目指すは天下に
その名を轟かす
大大名……

そう

次々と他國を
我がものにし

密より
「蘭番待」と
いう番木まで
取り受けた……

主君・
織田信長様
のように



俺も……俺も欲しい……

「蘭奢待」が……!!!



信長様はよいものを揃ておられる

あの蘭奢待の見事さはどうだ……



それにしても……



「ひろうと」という不思議な光沢の布にうつすら浮き出る蘭草牡丹

斬新かつ見る者を夢心地にさせる信長様にびつたりなお召し物よ……



俺が戦奉行なら
すぐに古くさい
室町風を改め
させるな……

これだけで
新選気鋭
織田軍団に
ふさわし
かろうに……

嗣は仁王鋼
袖は象脚の
小びれのみ



それに比べて
あの方の甲冑の
工夫のないことお
……

まるで
「私は戦でも
頭使えませんが」と
表明してるような
ものではないか



こういう方は
いつも「小心者」と
聞かされたほうが
聞かろう



あ……あ……
こりやあまた
だめだ……

袖一杯当世風を
示しておられるが
心がついてきて
おらん……





うん
いかにも
気に入ら
しいも
つくり
した
笑いだ……



俺も
気き
つけよう

けなす笑いは
本人の得意げが
後に残って
キレが悪い……



左介をここに
呼んだのは
ほかでもない

おまえは約十七
から使い番
として俺に
仕えてきたな



おまえの
その能力

今度も見事
發揮してみろ



時に後方部隊
時に敵の本陣へと
伝えて参りました



はっ！

殿の新斬
撃まらない
二命令を



知つてのとおり
あの小奴い
松永久勢めが
またも俺を
裏切つた

北の上杉勢が
京に攻め上ると
知つての
餌だらう



松永は俺を退けんと
西の毛利
石山本願寺勢と手を組み
信貴山城に籠つた

上杉勢

毛利勢

本願寺勢

安土城

信貴山城

もはや兵を出し
信貴山もろとも
松永を潰すしか
ない



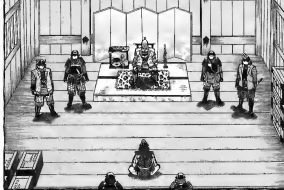
















う……
映……

この俺の
綱腰にしかと
!!



平ダモは
わしの
唆じや

それを渡せと
いうことは
わしに人形に
なれということ

誰が来ようが
絶対に渡さん



わしの人生は
わしが決める

わしは
心のままに
この乱世を
生き抜いてきた

將軍を殺し
大仏殿を焼き
欲しい物は
すべて奪い
取ってきた







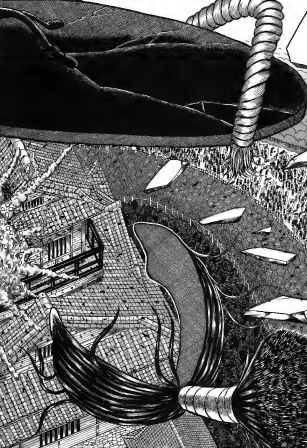


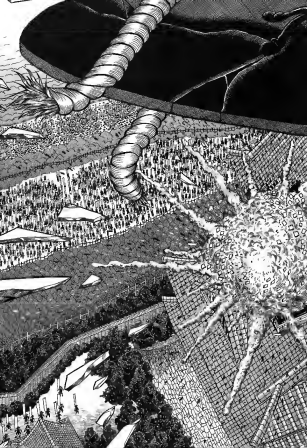
























恐れながら
この美言……

お気持ち
お察しするに
……

上様はハナから
平ダモなど
腹中になかった
のでは……と



上様が真に
欲したのは
……



松永の心

同じ下廻上の
道を歩まれた
「願」としての証を
所望されたのか
……と



おまえ
ごときに
俺の肚が
読めるとでも
思ったか!!!





松永めの
末期の歌に
ござります



「天下がもつと
広ければお互い
ぶつかり合う
ことはなかった
ろうに」……

戦友の情別が
ありありと
詠まれて
おります



毛が三本
足りん歌の
戯事と思つて
お納めくだされ
!

では!



……
サトル知恵を
働かせなつて





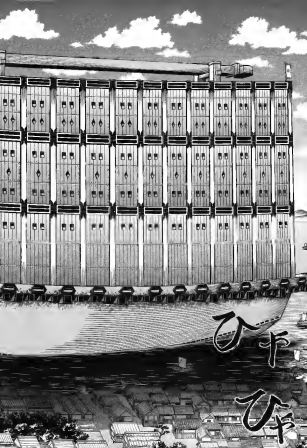














うひゃひゃ

第二席
黒
塗り!!













あの船……
お前ら茶坊主は
どう思う



お前は
どうだ……
茶坊主



いや……
このような巨大な
ものは南蛮船でも
見たことが
ございません

外板に鉄を
張りつけ
非貫通性と
防火性を持たせる
……

軍船として
見事というほか
ございません



いささか
もの足りのう
すじます













めっそうも
ござらん



それが
いいのだ



それがしは
中川家ほど
名門の生まれでは
ないゆえ……

名跡の一つも
出せず
義兄上には
無慮失礼致して
おります



武人は
清貧をもって
良しとせねば

私など
茶の湯にうとい者に
名跡を出されては
かえって困る



主君、
荒木村重様の
茶会などは
もう大層でな
……

種々な名籍を
自慢げに出されるの
だが……私には
返す言葉がなく
四苦八苦しておる



いや、近頃は
本願寺勢との
争いが激しくて
な……

こうして
会いた
くるのも
ままならぬ



さ……
種々な
名籍……



中川様
そろそろ
……



馳走に
なった

がさ

がさ







③先に中国で製作されたトナリを輸入品の模倣。





すまんな
おせん……



金子の
ほうが……

と……おつて
おりますの



義父亡き後
この領地を継ぎ
代官になった
とて……

もらう物は
知れたもの
……

俺に
平等性があれば
こんな苦勞は
かけまいに……

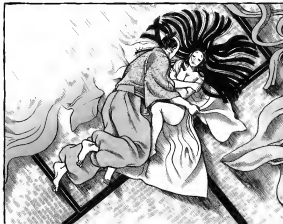


苦勞より
……

勝つて
いますよ















荒木の意が
家中にあまねく
及んでいるとは
限りませぬ！

とにかく
古田殿は
信長様の
直臣！

ただちに
織田軍に
合流して
ください！



た……

たった今
荒木の家臣
中川殿が……

本願寺征伐へ
向かったという
のにか……!!?



まずい
……



あ……
荒木方には
つかないでくれ
義兄上……

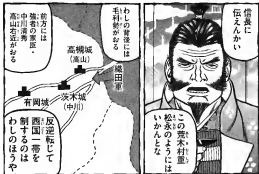
もしつかば
……
義兄上は 終
敵……!!





第三席
碗
LOVE







摂津国・茨木城
氏家府家本宅

申し
上げます
中川様



わしは決して
織田方には
家来らぬ!

何があろうと
主君・豊本様
に従い、前方を
死守する!

織田の使い番が
何處様ようが
わしの覚悟は
変わらん!

戻れ!



されど、いま一人
参じましたる
使い番は……

中川様の義弟
吉田左介殿に
ございます









逆賊・
中川清秀の妹を
殺さねば
なりませぬ!!

それが
武人の道で
ござろう!!

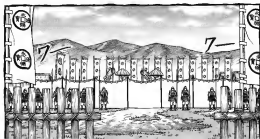


血迷ったか
左介エ!!

おせんを斬れば
汝もこの場で
斬り捨てろぞ!!











欲しいのは
ただ武功のみ

この機に
乗じて 必ず
古田の名を
天下に轟かす











根津一國の
大守として
信長様の覚えめでたき
荒木殿が……

地下より
逃れるとは
何事ぞ!!



黙らん
かい!!

汝ごとき
鎧兵に
わしの気持ち
がわかるか!!



少しは
……

松永殿を
見習っては
いかがか……





同じ反逆者
なれど 自ら爆死
された散り様!!

武人として
天晴れとは
思われぬのか!!!



さ……
三本杉の
刃紋!!

薬物
関の孫六
兼元「やない
か!!

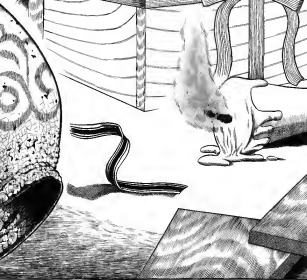
汝……が
なぜ……!!!?



て……











※黒い顔の人物は、この物語の主人公である。この人物は、この物語の主人公である。



器に柄を
染め付ける
など 誰が
考えようか……









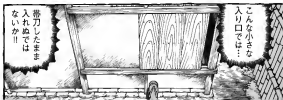
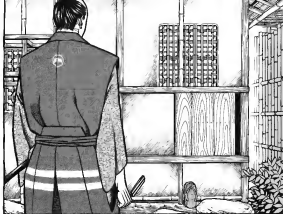
第四席
茶室の
ファンタジー





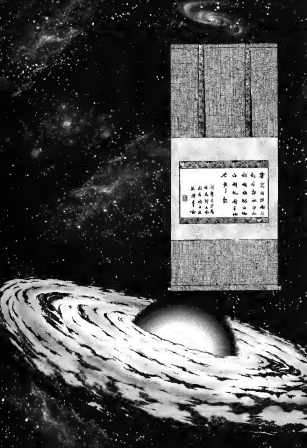
















あ……

新しい……



室内に一切
無駄がない
からだ……

あらゆる
風情が
溶け込んで

眼がとつかかる
場所を失い
「空」を見るかの
ようになって
いる……!!



茶席を
改めとう
存じます

しばし
庭でお待ち
ください



俺が
体験してきた
様式美とはまるで
異なる……!!

こんな
感覚は
初めてだ!!











よくぞ
お気付きに
なれました



寛木様
あの高麗茶碗を
譲ったのは
私でございます

先日、毛利方へ
お逃げになった
寛木様より
便りが参りました



己の命と
引き替へんに
あの茶碗を目利きの
横田の者に渡した
……と

私は
ピンときた
のです

その方とは
吉田様では
ないかと



社は
くぐって
……

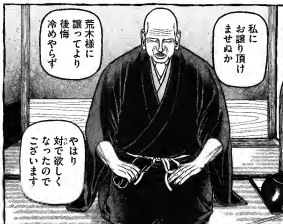
この愚かな
男のことを
信長様に告げる
なりなんなりと



悪かとは
滅相も
ございせん

私は太史
感じ入って
おります













第五席

天界
への階段



な……
なんと

しかも漆黒の
城壁に 金細工が
ふんだんに……

この
「ズドギユッ」
とした異様な
迫力はなんだ……

まるで
北山の金閣寺と
要薬が合体した
大化物では
ないか……!!



五重塔の
天主閣
……!!!



さすがは
数奇者の
古田様

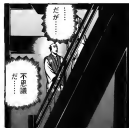
良い
ところだ
気づき
なまる



この天主は
今までの要薬としての
機能のみならず
住まいとしても
造られております

ですから
金閣寺のように
住まう様子の様相が
見て取れるのです





























このお方は
本気だ……!!

龍は
古来より
中華国王の
象徴……

本気で明を
手に入れんと
する
決意表明!!



南盛に
こんな時が
ある

ある時
大國の王が
力を誇示せんが
ために
天まで届く塔を
造らせた……

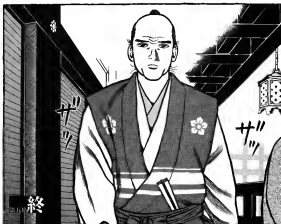


しかし
その行いが
神の逆鱗に
触れ……

雷によって
巨大な塔は
瞬く間に粉々に
されたそうだ











第六席
強き二人の
茶事



「顔は物
類に似
て、形
は青い
茶碗……」

まるで清水が
ペロンと顔に
なったような
深青鮮やかな
見事さ……!!

※明治初期の茶室の風情より描かれた茶室。明治茶会館「ついで亭」がモデルと見られる。



「まうた……
愚問に……」

養父亡き後は
実父の私めが
座しく継いで
ゆこうと思ひ
ます……!!



「早よう
頂かぬが！」

「畏れ多くも
羽摩様がお茶を
点ててくださる
というに!!」



「まあ
そう怒るな
置定」

「播磨・三木城を
落とした愚直で
上様より賜った
その唐物茶碗」

「誰でも
目が
眩むわ」





それしきのことで
左介が明智殿に
入ったとは
思っております

おまえと俺とは
備前攻め以来の
古い仲だからな

も……
申し訳
ありません

怒っくらん
怒っくらん



信長様の
命令で明智殿の
丹後経略に従い
……

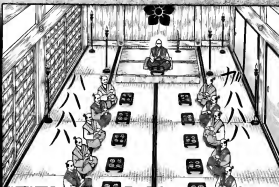
祝儀の書に
加わるのも
当然のことよ



知りたいのは
明智殿が何を
話していたか
……

近畿五カ国を
預かり 織田の
家臣筆頭となった
明智殿の考えをな

……
そのための
もてなし
だったか……





それは
断じてない！



近頃 傳は
信長様の
お考えが
わからぬわ……



上様は因国の
長宗政経と
織田の取次を
しかと任されて
おるのだから！



信長様は
大きなお方で
ござる

その大さきは
この島国に
とどまらず
まい



右大臣の官位を
朝廷に渡上された
かと思えば……

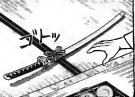
安土に古今東西
異なこともない
城を建てて……

いったい何を
目論みしておられる
のやら……













これを実行する
大庭は
大軍の将となって
身に染みてわかる

信長様は一見
常軌を逸して
おられるように
見えるが

すべて
真面目にゆえの
ことだ



戻られた信長様は
それを知り
一同を処刑した……

留守中の油断こそ
國の危機と
判断されたからだ

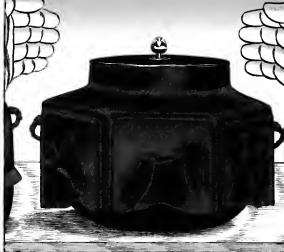


そして
真面目に動けば
自分にかかわらず
取り立ててくださる

流石の身であった
この光秀をここまで
出世させてくださった
ご恩を忘れるな









カラ



八角金じゃ
ない……!!



あれは
……



ただの
真鍮金……







ともに
公ではない
茶事なれど

羽織様は
信長様から
拝領したものを
出し……

明智様は
出さなかった

信長様を辱へと
申されるなら

なおさら
拝領の茶器で
もてなすべき
では……

明智様とて
名物をいくつも
持つ数寄者

使い方を
知らぬわけでは
あるまいに……

俺には
いまひとつ

明智光秀と
いう武將が
わからぬ……

終

京 1581年2月



それがしも
加えて頂き
恐惶至極……



信長様は
まったく
面白くないと
お尋ねになる



密の御前
軍団を率い
京の町を行進
しようとは……



一世一代の
晴れ姿で
「御馬揃え」に
挑まねばな！

第七席

京の
ナイト
フィーバー





いやあ
壮観な……

當長様をはじめ
皆様 精いっぱい
奮闘っておられる



東の北条と
和睦を結び
石山本願寺を
ついに屈服させ
……

丹：徳・謙・加・
波：前：中：真・
丹：美：謙・謙・
後：作：前：……

これだけの土地で
戦果を挙げたの
ですから
皆褒められしゅう
ございましょう























スッ
スッ



佐久間盛盛殿
のことには
ございます



御賞の
代わりとは
申しますぬが
……

ひとつこの
金座の銀いを
お聞きくださり
ませぬか？



佐久間殿は
長らく上様には
更々奔走を
重ねた重臣……

そろそろ
岐免なされては
いかかと



たしかに佐久間殿は
本願寺攻めの大将で
ありながら
手をこまねきました

努力不足ゆえの
追放処分は
異議はありませんぬ

ただ……
あれからもう
半年が経ちます
……















第八席

カインド・オブ・
ブラック









いや……
戦勝きで
かなわんわ

毛利のほうは
いかがで
すか？

……
うまへ
いじつ

こうして
茶を理由に
息抜きでも
せねばのう

御膳前えを
休んでまで
文筆を続けた
甲斐があったわ

毛利元は
まだ若く
支配力は強い

それを知ってる
元とは
いつでも和睦に
持ち込める状態よ

むろん
このことは
信長様には
内緒だがを

因幡・備中
伯耆を落とせば
毛利勢は
手も足も出ん……





まだまだ
甘うござい
ますなあ
吉田様



宗二殿は
「奥くない」と
評したようで
ござるが……

実物は
生嚙を飲み込む
ほどの
素晴らしいで
ござった……



恐れながら
これまで「實に
なつた名物の数は
いかほど？」

それがしは
茶の湯御攻道
信長様の重臣

幼少より
数えて
十は下り
ませぬ



私は五十は
目にしており
ますよ



その上で
私は評して
いるのですよ

おいそれと
平タモが良いと
言われては
困りますな



良い物を見る
ために、とれだけ
機金をつくり……

とれだけ足を
運ばねばならぬか
わからぬ
古田様では
ございますまい



「名物」とは
私ども達の者が
呼びはじめた
もの……



この男

鼻持ち
ならぬ
動物者……



そして解も
重きを置く器種が
この茶人……



見た目の風情だけ
でなく、所蔵して
いた人物の品性や
歴史をも踏まえて
価値を決めている
のです







恐れながら

羽髪様は武家の
生まれでもなく
腕一つで大将に
なられたお方……



なんでも
わかり合い
とうなる……

主君
信長様
以上にだ



だが
わからぬことが
一つある



宗陽殿は
何ゆえ
酒を好むのか
……



そしてこの私も
しがな魚問屋から
腕一つで
信長様の三茶頭さんさどうの
一人になりました

お互い
似た者同士と
いうことで
ございましょう



黒という色は
奥に隠す色だ

死を司る
色だ



日常に
用いる
色ではない

周知でも
明でも
暗でも

古今東西
黒が最も
嗜好品など
とは 聞いた
ことがない



何ゆえ
今焼を
わざわざ黒く
作るのだ？

こんなものは
下賤な者から
高貴な者まで
誰も欲しがらぬ



それが
私の業に
ございます



この黒い色が
私の理想とする
色であり

理想の
生き方なので
ございます



万事何事も
続けていれば
無駄を見つけて
うるさく感じる
ものです

その無駄を
省いて省いて
省き込みますと
.....

最後は
この色の
こときものに
なるのです

世に言う「名物」は
すべて盗來の品……
その価値を破壊して
でも……

私は黒こそが
至高だと
証明したく
存じます

そしてそれが
止むに止まれぬ
業なのです



そ……
宗易殿は

新しき価値観を
天下に押しつける
と申すか!!

それを
実現する
には

私の道を知り
野心をともに
する……



あなた様に
天下を獲^とって
もらうほか
ございますまい





九州博多の豪商
島井隆の持つ
真鍮「桶衆」

どれ一つ取っても
一國以上もの価値に
相当します

もし三つ揃えた
ならば、それはもう
天下を覆ったと
言っても過言では
ありませんまい

そ

それほどの
ものが
この世に
あるのか!!?

終

516



1581年8月
 近江国・羽楽丸古城本陣
 近江国・羽楽丸古城





第九席

天下 よりの使者





この馬が真に
欲しいのは
鳥取城中の者
でしょうな



「輪道」の
馬印は伊勢の
名牧で育った
証……

ギムアとしまった
短腰にモカッと
出た横矢の馬相が
また良い……



サ
ッ

サ
ッ



……だが
戦に備けは
禁物……

備けは
より多くの兵を
生みかねません



兵糧を一切
断たれた今
城中は恐らく
飢饉状態……

馬でもワラでも
食せるものは
なんでも欲しい
ところでしょう



あなたは
神を信じ
ますか？

チ
ユッ







すでに死は
覚悟して
おります



信長討ちを
口にしたことは
新前に値する

いかに天下の
三茶頭と
いえどもな



同じ斬しき道を
進めども
信長様と私とは
決して相いれ
ませぬ

信長様は
武をもつて
天下を「華」の國に
なさろうとして
おります



しかし私は
藝をもつて
「侘び」の國に
しとう存じます

私はそのことに
残り少ない
命を懸けとう
ございます



宗易殿の
その手……

ゴツゴツと
節くれ立ち
あかぎれの多い
その手は……

図に乗って
軽はずみな
ことをする
人間の手では
ない





この世に
滅せぬ人間
などおらん

宗易殿
動いて
もらうぞ





よほどのこと
でもない限り
表に出しよう
ないので
ござろう

……お持ちで
あることすら
知りません
でした



たしかに徳長様は
三種の茶入のうち
二種を持つのに
見合うお方

番兄上は
その二種を
ご覧になり
ましたか？



ほう



私も宗廟殿に
茶を置く
教習者……

三種の茶入の
四くは存じて
おりますよ



そして
「桜花」蘭香

根拠記が持ち
八代將軍・
足利義政公へ
進ったとされる
清々しい逸品……



まず
「新田」蘭香

源氏の英雄・
新田義貞公から
茶の湯の祖・
村田珠光翁へと
渡った堂々たる湯の
物であると……



最後が
博多の島井路が
手にある
「桶狭」真鍮……

これも義政公が
愛でた茶人で
絵色が美しい
下彫らみのものだ
そうなの……



ふう



信長様は
「桶狭」がほしくて
たまらないで
しょう……

それが手に入らば
国中の名物が
ほばすべて揃い
……



武のみならず
数奇においても
天下を治むる
ことになります
からなあ……



たとえ
それがしの
上久世庄を
売ったとしても
……

三種の茶入の
フタひとつ
手に入れられ
ませぬ……

手に入れらるる
者との器の違いを
まざまざと
知らされてござる
……

そのために
悪事など
働かぬよう

これを
さし上げ
ましよう

一体何を
したら……

どんな功を
上げれば
手に入るのやら
……

面白い物は
してござるが
……

……
形だけ
ですか？













Hyouge Mono

Character Profile!!!



Mitsuhide
Akechi



Nobunaga
Oda



Furuta
Sasuke



Soueki
Senno



Hideyoshi
Hashiba



Sasuke Furuta



古田左介

1544(天文13)年、美濃国生まれ。織田信長の使い番として戦場を駆けめぐる。濃米城主・中川清秀の妹・おせんを助け、山城關上久世荘の代官となる。荒木村重の謀反に際し、摂津攻めで法蘭西・明・梵天の神・丹波草子にも従軍。故いづから父に妻の手紙と書を受け、信長の高嶺・千奈原(科修)の門人に。好きな色はグリーン&パーシモン。



1534(天文3)年、尾張國の豊田大名・織田信興の嫡男として誕生。生まれつき破天荒な行動が多く、「大うつけ」と呼ばれた。父の許願で豊地に仕事を付け付けたのは有名。権謀計略の無い、素直な心を持つ。將軍・室町義隆を幸じて上洛。天下人へと飛躍する。豊臣文化に強い興味を持ち、豊臣陣営に安土城を築く。好きな色、レッドもブラック。

織田信長

naga



Soueki Senno



千宗易

1522(大永2)年、和泉國堺生まれ。奥州藤原の長男。本名は与四郎。若い頃から書に耽り、北條道隆、武野燭燭に師事。信長の奥占圖師。中井宗久、津田新及とともに、三英圖のひとつとして仕える。義書を編み、まづたく斬新な義書を生み出し、独自の「わび書」を考案。信長の機嫌と密かな取交を続ける。好きな色、ブラック。



Nobu Oda





Hideyoshi Hashiba

羽柴秀吉

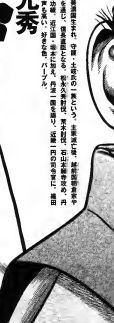
1538(天文5)年、播磨国生まれ。東海地方を転々としたのち、備前下へ。宇喜多宗下(西郷)と名乗る。
美濃攻め、陣所の戦いなどでめざましい働きをみせ、近江国長浜城主へと出世。播磨国姫路へ移し、
中国の連・毛利軍と対峙。織田家の重臣・内田康衡と松田康家から一字ずつもらい受け、
改名したとされる。好きな色、白ーみど。

Mitsuhide Akechi

明智光秀



1528(享禄2)年、美濃国生まれ。守護・土岐氏の一門という。主君滅亡後、織田國朝倉家や
義隆に仕え、奥の行旅を通じ、信長直臣となる。稻永・久野討伐、粟末討伐、石山本願寺攻め、丹
波・丹波平定に絶大な功績。近江國・瀬田に加え、丹波一國を領り、近畿一円の司令官に。織田
家第一の大名との呼び声も高い。好きな色、パープル。



君は人のために死ねるか

君は人のために死ねるか

黒くぬれ

Paint it Black

黒くぬれ 黒くぬれ 黒くぬれ 黒くぬれ 黒くぬれ 黒くぬれ

ワン・ラブ

ONE LOVE

ワン・ラブ ワン・ラブ ワン・ラブ ワン・ラブ

宇宙のファンタジー

Fantasy

宇宙のファンタジー 宇宙のファンタジー 宇宙のファンタジー

天国への階段

Stairway to Heaven

天国への階段 天国への階段 天国への階段

強き二人の愛

What is and what should never be

強き二人の愛 強き二人の愛 強き二人の愛

恋のナイト・フィーバー

Night Fever

恋のナイト・フィーバー 恋のナイト・フィーバー

カインド・オブ・ブルー

Kind of Blue

カインド・オブ・ブルー カインド・オブ・ブルー

宇宙よりの使者

Mighty Mighty

宇宙よりの使者 宇宙よりの使者 宇宙よりの使者

「へうげもの」第1巻は、モーニング65年38号・46号に掲載された作品を収録したものです。

編集部では、この作品に対する皆様の御意見・御感想をお待ちしております。

また、今後「モーニングKC」にまとめてほしい作品がありましたら編集部までお知らせください。

なお、お送りいただいたお手紙・おハガキは、ご記入いただいた個人情報を含めて著者にお渡しすることがありますので、あらかじめご了解のうえ、お送りください。

東京都文京区音羽二丁目十二番二十一号

読談社「モーニング」編集部

読談社「モーニング」編集部

モーニングKC係

N.D.C. 726 322p 19cm

モーニングKC-1487

へうげもの 1

二〇〇五年十二月二十二日

第一刷発行

(文庫はカバーに表示してあります)

著者 山田芳裕

発行所 五十嵐隆夫

発行所 株式会社読談社



東京都文京区音羽二丁目十二番二十一号
読談社「モーニング」編集部
電話 03-3339-5191
ファックス 03-3339-5192
Eメール yodanisya@yodanisya.co.jp

印刷所 大日本印刷株式会社

製本所 誠和製本株式会社

©Yoshitomo Yamada

（本書の表紙裏面と本文中に「読談社」のロゴマークを記載し、使用されています。）
本書は、読者の権利を保護するために、本書の表紙裏面と本文中に「読談社」のロゴマークを記載し、使用されています。本書の表紙裏面と本文中に「読談社」のロゴマークを記載し、使用されています。本書の表紙裏面と本文中に「読談社」のロゴマークを記載し、使用されています。



1 山田芳裕

YOSHIHIRO YAMADA

urped each other.

r the ways of tea and material greed,
and status.

rior of Nobunaga Oda.

ius, and his spiritual insight

Sasuke drove road to Hyouge Mono.

That is the question!!



9784063724875



1929979005146

雑誌 42665-87

ISBN4-06-372487-5

C9979 ¥514E (0)

モーニングKC 講談社

定価：本体514円(税別)

It was the Sengoku-era, when the warlords usurped each other.
There was a man whose soul was overtaken by the ways of tea and material greed,
as he worked his way up toward greater power and status.
His name was Sasuke Furuta, a subordinate warrior of Nobunaga Oda.
With his world broadened by Nobunaga the Genius, and his spiritual insight
learned from Senno Soueki the Master of Tea, Sasuke drove road to Hyouge Mono.
To live or not to live, For the power or the art, That is the question!!

群雄割拠、下剋上の戦国時代。
立身出世を目指しながら、
茶の道と物欲に魂を奪われた男がいた。
織田信長の家臣・古田左介。
天才・信長から壮大な世界性を、
茶聖・千宗易(利休)から深遠な精神性を学び、
「へうげもの」への道をひた走る。
生か死か。武か藝術か、それが問題だ!!



経緯部、赤堀部、志野経部……
織部殿にもいろいろありますが、
私が今欲しいのは織部殿という
解のような茶碗です。
日常使いに、織部具のきゅうすでも遊って
鯉が淵を映くが如く
湯飲みにお茶をそそぎ込み
たいもですな

山田芳裕



Sasuke Furuta
Nobunaga Oda



Hideyoshi
Mitsuhide Akechi



Osen
Mitsuhide Akechi

